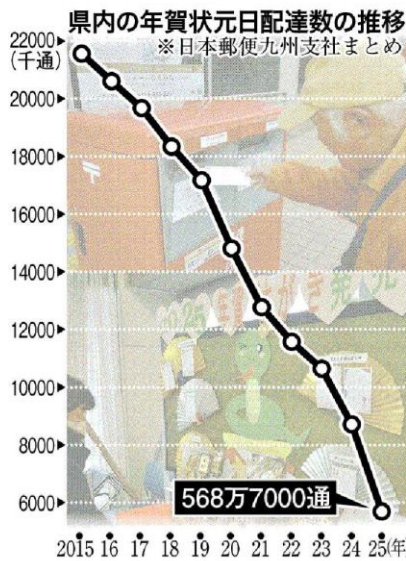




「年賀状じまい」進む

県内 元日分 10年前の3割弱

新年のあいさつが変化してきている。日本郵便九州支社によると、2025年に鹿児島県内で元日に配達された年賀状は568万7千通、1人当たり3・7通で、10年前の3割弱。松の内が明けた8日、鹿児島市内で「出しましたか?」と聞いてみた。「年賀状じまい」の背景には、郵便料金の値上げや交流サイト(SNS)の普及のほか、慣習にしがらがない意識の変化もあるようだ。

郵便値上げ、SNS普及背景

同支社によると、県内の元日の年賀状は15年は2156万3千通、1人当たり12・8通だった。減少傾向が続き、今年は前年から34・7%の大幅減だった。通常はがきの料金は昨年10月に63円から85円に値上げされた。届いた数が半減した80代男性は「ここ数年減ってきていた。値上げのほか、新型コロナウイルスで付き合いが減った影響も感じる」と推測する。

主婦の日高和代さん(72)は受け取ったはがきに「今年で最後」とあり、「さみしかった」。「メッセージを書くのは相手との思いやりや一年を振り返る機会になる」と、今後も続ける考えだ。そのほか、「送りたい人だけに送るようになればいい」と話した人もいた。

SNSを使う人も増えている。LINE(ライン)などで連絡した鹿児島商業高校1年の田中怜那さんは「年賀状は残るので処理に困る。そもそも友人の住所を知らないし、知られたくない人もいると思う」。

鹿児島大学2年の池田隆真さん(21)は8日、年賀状のお礼を一通投函した。友人約20人にはラインを使っていたが、「手書きの文字からは温かみを感じられ、もらってうれしかった。来年は自分から出したい」と話した。

2025年1月9日付1面

【問1】 何が変わってきていると書いてあるでしょう。

【問2】 2025年に鹿児島県内で元日に配達された年賀状は何通だったのでしょうか。

【問3】 10年前の何割程度だったのでしょうか。

【問4】 「年賀状じまい」の背景には何があるのでしょうか。記事中から40字で抜き出しましょう。

【考えてみよう】 今年、自分の家を出した年賀状の数を調べてみよう。

むずかしい漢字とことば

郵便(ゆう・びん) 割(わり)
背景(はい・けい)
値上(ね・あ)げ
普及(ふ・きゅう) = 広く一般にいきわたること。
傾向(けい・こう) = ある特定の方向へ向かうこと。
大幅(おお・はば) 届(とど)いた
影響(えい・きょう)
推測(すい・そく) = あることがらをもとにしておしはかること。
振(ふ)り返(かえ)る
連絡(れん・らく) 処理(しょ・り)
困(こま)る
投函(とう・かん) = 郵便物をポストに入れること。